

反正天皇ゆかりの地紀行

～誕生・皇子期・治世・陵墓～

誕生期 皇子期 治世 陵墓

1 産宮神社
 (兵庫県高槻市松原町)
 反正天皇は、仁德天皇と磐之媛の三皇子として淡路宮で生まれた。産宮神社は、淡路宮で生まれたと伝えられている(日本書紀)。産宮神社は、淡路宮に後世、反正天皇を祭神として創建された。
 境内に「産宮」反正天皇御降誕地の石碑が建てられている。

2 瑞井 (産宮社境内)
 反正天皇が淡路宮で生まれたという伝承から、産瀨に使用したと伝ええる井戸である。井戸は彫形された角柱で、建りの石垣は明治39年11月に造られた。井戸横には共産黨が建てた「瑞井」の石碑がある。

3 瀬清水 (高槻市河内郡松原町)
 産宮神社からは、倭文川をへだてた所に反正天皇の産瀨の井戸(瑞井)が伝わる。井戸は瀬清水と呼び、ここから湧き出た清水で炊まわれたと伝えられる。六角形をした井戸枠であるので、六角井戸とも呼ばれている。
 ※右は昭和59年(1984)撮影のもの。

11 「反正旧址」の碑
 (高槻市河内郡松原町)
 反正天皇は皇子時代、仁德天皇の崩御後、長兄の履中と次兄の任香から皇位を争い、勝つまで、淡から石上(天理市)に移った際に、淡河内飛鳥の地に仮宮をつくった。仮宮地は、丹比道(竹内街道)に沿っている。

12 維日谷稲宮
 (宮城県野田町)
 反正天皇が皇子時代、河内飛鳥に遷した仮宮伝承地として、後世、反正天皇を祭神として建てられた。現在、社本神社と合祀されている。

17 紫羅神社 (他府県上田7丁目)
 第18代反正天皇(はんぜいてんのう)の丹比紫羅宮(にひらびのむら)の伝承地に5世紀末頃、第24代任香が伝承地を築き建てたといえ、伝ええる。淡路宮(高槻市河内郡松原町)・菅原道真も祀る。江戸時代、「広域の社」として「天満宮」ともよばれていた。旧原村の稲氏社である。

18 「丹比紫羅宮」碑
 (高槻市河内郡松原町)
 反正天皇は5世紀前半、ヤマト(丹比紫羅宮)とされたと伝えられる。大正5年(1919)、大阪府が昭和19年(1944)1月、紫羅神社表の南入口に建てた。

19 「反正天皇」の伝承地
 (高槻市河内郡松原町)
 反正天皇の丹比紫羅宮の伝承地。大坂府が昭和19年(1944)1月、紫羅神社表の南入口に建てた。

4 日光寺
 (高槻市河内郡松原町)
 産宮神社を鎮守とした。飛鳥時代に聖徳太子が創建したと伝えられる。崇神寺の裏手にあり、産宮神社を鎮守とした。平安時代に天照皇孫天照大御尊(弘法大師)が建てたといえる。

6 大和大国魂神社
 (兵庫県高槻市河内郡松原町)
 反正天皇の父である仁德天皇の5世紀初頭、ヤマト王権が別所統一の過程で淡路島にも進出したと考えられる。当社は、同地の「開拓の海人」を祀った。後世「かみり」神社、宗廟二宮である。

7 御井の湧水
 (兵庫県高槻市河内郡松原町)
 反正天皇が淡路宮で生まれたといわれる。井戸は、仁德天皇が淡路宮を築き、清水を引かせ、水を取り、水を飲んだと伝えられる。仁德天皇の伝承地である。井戸横には共産黨が建てた「瑞井」の石碑がある。

13 社本神社
 (宮城県野田町)
 伝言式内社である。当社は、野田の氏神、金剛輪尊が、その神宮である。反正天皇の仮宮地に祀られた。維日谷稲宮は、明治時代に社本神社に合祀された。

14 金剛輪尊
 (宮城県野田町)
 反正天皇と仮宮の伝承を記憶した。寛仁(729-1815)が注釋していた。真言宗。観音菩薩が再建されており、寺額に「近海輪尊」とある。観音堂前、南無阿彌陀仏に祀られた。観音菩薩の彫像が現れている。

20 紫羅神社参道の松木
 (高槻市河内郡松原町)
 紫羅方面から表門に至る参道には江戸時代以降、河内系名産物にもある。樹の木の根が掘られていた。市産の由来となった。松木は丹比の地名(のち名取)の松が今も残っている。

21 紫羅神社「井原西前」の句碑
 (高槻市河内郡松原町)
 江戸時代前半の書名西前、小坂家である大坂の井原西前は、当社を訪れ、「くけつへゆつ、数多の松の木の根が掘られていた。市産の由来となった。松木は丹比の地名(のち名取)の松が今も残っている。」と記述されている。河内産名産物に載せられている。1911年(大正)の年報8月8日号から採集が行われる。

22 婦神社(産宮内)
 (高槻市河内郡松原町)
 乳児が産の乳房を噛んだといわれる。伝承がある。大坂府が昭和19年(1944)1月、紫羅神社表の南入口に建てた。

8 屯倉神社
 (高槻市河内郡松原町)
 5世紀以降、三原野原には、天皇皇の自給地とされる。伝承地である。反正天皇を祭神とした。平安時代に天照皇孫天照大御尊(弘法大師)が建てたといえる。

9 反正天皇「産瀨」の井戸
 (高槻市河内郡松原町)
 反正天皇が淡路宮で生まれたといわれる。井戸は、仁德天皇が淡路宮を築き、清水を引かせ、水を取り、水を飲んだと伝えられる。仁德天皇の伝承地である。井戸横には共産黨が建てた「瑞井」の石碑がある。

10 正井殿
 (松原市河内郡松原町)
 正井殿は紫雲寺(すざのみこと)を祭神とした。丹比道(竹内街道)に祀られた。明治7年(1874)の1季村限り限額に、正井殿は反正天皇の丹比紫羅宮に所在したといえる。淡路宮で3年3月、反正天皇を祭神とする。清水神社が建てられた。同社に、反正天皇産瀨の井戸と伝えられる清水井が築かれている。

15 飛鳥川の歌碑
 (高槻市河内郡松原町)
 寛勝が反正天皇の仮宮の出来事や争いの飛鳥川に託して建てた歌碑。江戸時代後半の文化年(1805)5月に飛鳥川(のち)に建てた。橋本入彦が詠んだ飛鳥川の歌も伝える。

16 当城跡の碑
 (高槻市河内郡松原町)
 反正天皇の父、履中から大和へ向かう途中、この当城跡の新池に建てられた。寛勝が文化年(1805)に建てた。橋本入彦が詠んだ飛鳥川の歌も伝える。

23 河内大塚山古墳出土の石室材
 (高槻市河内郡松原町)
 第18代、列島5番目の巨大前方後円形の河内大塚山古墳(後円部・羨道参考地)が6世紀中頃〜西暦に築かれた。全長335m、前方部幅225m、後円部幅145m、古墳に建てられた。天理市(大坂府)が当社に祀れ、手洗石に転用された石室材が移されている。

24 龍津社 (大坂市中央区東本町)
 (高槻市河内郡松原町)
 丹比道(竹内街道)に建てた。当社は反正天皇が丹比紫羅宮に遷した。河内系名産物にもある。樹の木の根が掘られていた。市産の由来となった。松木は丹比の地名(のち名取)の松が今も残っている。

25 反正天皇陵古墳
 (高槻市河内郡松原町)
 丹比道(竹内街道)に建てた。当社は反正天皇が丹比紫羅宮に遷した。河内系名産物にもある。樹の木の根が掘られていた。市産の由来となった。松木は丹比の地名(のち名取)の松が今も残っている。

淡路島
 1 産宮神社
 2 瑞井
 3 瀬清水
 4 日光寺
 5 産宮神社
 6 大和大国魂神社
 7 御井の湧水
 8 屯倉神社

松原市
 11 「反正旧址」の碑
 12 維日谷稲宮
 13 社本神社
 14 金剛輪尊
 15 飛鳥川の歌碑
 16 当城跡の碑
 17 紫羅神社
 18 「丹比紫羅宮」碑
 19 「反正天皇」の伝承地
 20 紫羅神社参道の松木
 21 紫羅神社「井原西前」の句碑
 22 婦神社(産宮内)

高槻市
 23 河内大塚山古墳出土の石室材
 24 龍津社
 25 反正天皇陵古墳

26 方違社と向井神社
 (高槻市河内郡松原町)
 方違社とは反正天皇産瀨古墳(田出井山古墳)の北側に接し、向井神社が合祀されている。向井神社は、その境内の天皇宮、朝山古墳に近くにあった。順に向かうことか向井と名付けられ、反正天皇を祭神とする。方違神社に向井神社の石碑が移されている。